

全會及び左翼系組合)其れに對し、從來なれば異論續出の狀態であつたが、本會は何等これが問題となりず、従つて全農全休としては左右兩派の對立が著しく除去されて内部統制が著しく強化されたかの如く思はる、事

一全農全休として左翼化的傾向が強まつて居る様々思はる、事  
前述の如く左派勢力の合流が無條件に容れられて居る事は一面には全農全体が左翼的傾向と辿つた結果とも考へられるが、及面には又全會派が右翼化した關係とも考へられる、従つてこの問題は別とするも、翌日開催された労働組合法小作法獲得労働大會は荏問労働政治同盟結成の契機とも云はれ、大衆黨としてはこの左派の結べる大會出席と承諾態度と採れるに不拘全農としてはこの左派の結べる大會出席と承諾し大會ではこれを承認せる事、並に運動報告中政治運動に就いて「社大黨は幾分階級的立場を逸脱せる傾向あり」と云はれ、云々の字句

が報告書中に感、られ可成り明確に同黨を批判して居る事等から考へると全農全体として左傾的傾向が顯著なる様に思はれること

一運動方針上に多少の新生面が盛りれた事

全農としては小作問題解決の爲現時の狀態としては、土地問題に主力を注ぎ其爲には小作法獲得闘争と主軸に關ふことを述べて居るが他面之を組織上の問題と關聯して考ふるならば、かうした消極的部面の闘争は組織擴大の爲には何等積極的意味を有たないかの如く思はれる。従つて全農は如何なる方面に於て大衆的闘争團體としての發展を企圖するや多大の興味を以て見られて居るのであつたが、本大會に於ては組織上の問題に就て、全農による自主更生なるスローカンの下に農業の改善、生活改善に關する實際上の利益問題をも取扱ふこと、並に一般的には中農分子が既成勢力から離れて動搖して居る際これ等の利益をもとり上げ補助闘争、村落活動を出來得る限